



ほっとほっとタイムズー第2号ー

2025.6.20

井荻小学校 特別支援教育校内委員会

教育アドバイザー住谷陽子

先日の話です。バスに乗っていたら、私立の小学校低学年くらいの子がバスの中で宿題をやっていました。その隣に中年のご婦人が座って、間もなく会話が始まりました。「宿題終わったの？えらいねえ」「帰ったら自分で学童に行くの。すごいねえ」「そのあと自分でピアノ練習するの？毎日するの？すごいねえ」。会話はどんどん続きます。ご婦人がほめるたびに話はどんどん膨らんでいって、「おばちゃんはここで降りるの」というと「また会えるかなあ」と女の子。降りてからも振り返るようにしながらしばらく手を振っていました。

見ず知らずの人に、こんなに何でも話しちゃって大丈夫かなあと半分心配しながら見ていたのですが、一番感じたことは、子どもってほめられるのが本当にうれしいんだということです。

子どもの毎日は、いつも初めてのことへの挑戦です。だから本当は不安だらけなのですね。できないかもしれないけど頑張ってみた、不安だけどやってみた。毎日がその積み重ねです。だから、それを認めてもらえると次もやってみようという元気が湧いてくるのです。この気持ちが成長の原動力です。

先日、運動会が終わった後の低学年のある教室でのことです。担任の先生が、「みんなよく頑張ったね。おうちの人とどんな話をしましたか？」と聞いた時、返ってきた言葉は「かけっこ、一等賞ですごかったねって言われた」「靴脱げなかったら一番だったねと言われた」。うーん。それだけかと、ちょっと残念な気がしました。

運動会が始まるまで、それはいろいろなドラマがあったのです。「走るのが遅いから、走りたくない」という子、「踊りが覚えられない、間違ったら恥ずかしいから、みんなの前で踊りたくない」という子。みんなの前でまじめに頑張っている姿を見せたくなくて(からかわれるかもしれないと思う高学年はたくさんいます)、練習中すねた態度をとる子…。

そうした子ども一人一人にやさしく声をかけながら、自信をもたせたり、頑張った姿をほめたり、真剣に取り組む態度を見つけてすかさずほめたり、担任たちは細かく気を配りながら、一つ一つの取り組みを作り上げていったのです。

そのおかげで、運動会当日はほとんどの子どもたちが、その子なりの真剣さで頑張る姿を見せることができました。前日まで走らないと言っていた子が力いっぱい走ったり、団体競技を友達と一緒に熱くなりながら楽しんだり、難しいダンスの振りを完全に覚え、自信満々に踊ったり。照れ屋の高学年も、力いっぱい力強い演技を披露してくれました。そのすべてが子どもたちにとっては精一杯のパフォーマンスでした。だからこそ、勝ち負けではなく、頑張り切ったことへの賞賛を大好きな家族からもらえばいいなど、私たち教師は期待してしまうのです。

学校は学びの場です。

授業は新しいことに挑戦する場。少しずつだけど新しいことに挑戦し、できるようになると嬉しい。面倒だなと思っても頑張ってやり続けることで知らず知らず力をつけていきます。その努力ができるかどうかがカギです。

集団生活はトラブルが起きるのが当たり前。まだまだ周りが見えない、気持ちをコントロールできない同じ弱さをもつた子どもたちの集まりですから。けれども、トラブルになった時、なぜそうなったのか、どんな気持ちがしたか、どうすれば防げたか丁寧に共に考えることで、共に生きていく力を身に付けるのだと思います。

子どもたちは「友達がいるから楽しい」「新しいことがわかるのが楽しい」、保護者の方々も「学校へ期待する一番は、人と楽しく関われる力を身に付けること」とおっしゃいます。毎日無事に過ぎていくことを当たり前と思わず、「今日もよく頑張ったね」「できることができえたね」と、子どもの頑張りを認める声掛けをしていただければと思います。

今年の夏も暑そうです。しっかり栄養と休養を取り、保護者の方も忙しいとは思いますが、子どもたちとしっかりと関わるのは小学校までだと思います、心の栄養もしっかり取って登校させていただければと思います。

子育ての悩みも話し合いましょうね。7月8日(火)中学年の保護者会の後にはとほとほとティータイムを開ければと考えています。ご予定ください。

